

つ  
継ぐ梅に告げし逢瀬の歌垣は  
うたがき  
西海の里さと桜の頃ぞ

令和五年三月八日

大中臣正比呂



貰い受けた紅梅が咲きそうだ。  
肌寒き高原に開花し、そして散る頃は  
海近き町にはもう桜が満開だろう。オーイ！